

第342号

2017年
9月25日

月1回25日発行

げんぱつ

原発住民運動情報

発行所 原発問題住民運動全国連絡センター
発行人 中村敏夫 / 1部300円 年間3,000円
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-11-13
MMビルII (旧東洋ビル)402
TEL 03-5215-0577 FAX 03-5215-0578
郵便振替 00150-7-355202
http://homepage2.nifty.com/gjc/
メール=genpatu-jumin-c@nifty.ne.jp

事故責任果たさない東京電力

原発運転の資格・能力はない

原子力規制委員会は、東京電力
力II柏崎刈羽6・7号機(新潟
県柏崎市・刈羽村)の再稼働の
適合性審査について、「苛酷事
故を起こした東電と他の会社と
は違う」として、技術的な「適
合性」と合わせて事業者の「適
格性」を問うとしてきた。

七月十日、初めて小早川智明
東電社長ら経営陣を呼んでの安
全対策をただす意見聴取で、田
中委員長は、「福島の大惨事をや
りきる覚悟と実績を示すことが
できなければ、柏崎刈羽原発を
運転する資格はない」「東電の

主体性がまったく見えない」と
発言していた。ところが八月二
十五日、社長名の文書が提出さ
れた。「廃炉をやり遂げる」な
ど決意は書かれていたが、廃炉
作業の具体的な「覚悟」と「実
績」には触れていなかった。に
もかわらず、八月三十日の二
回目の意見聴取で、田中委員長
は「汚染水などは一つの例」と、
具体的な処置策を示せなくても
やむを得ないとの理解を示し、
九月六日の定例会で、田中委員
長は「適合性を否定する状況で
はない」と議論をまとめた。田
中委員長は五年の任期を終え、
九月十八日退任を前に、一転、
柏崎刈羽原発の適合性審査合格
へのお墨付きを与えたわけであ
る。

規制委の技術的な「適合性」
審査が事故の検証にもとづい
たものではなく、原子炉本体
に手をつけていないなどずさ
んなものであることは、これ
まで住民運動が指摘してきた
ことである。
東電は、福島原発事故の発
生責任についても、真摯な検
証を行っていない。福島第一
原発は、将来予測の津波だけ
ではなく、チリ津波(一九六
〇年)後に建設されたにもか
かわらず、その対策さえ措置
していなかった。しかも、こ
の初歩的な検証さえ行ってい
ないのである。柏崎刈羽原発
の苛酷事故再発防止の保障は
なにもない。

さらに、東電は、被災者対
策、被災地対策、事故収束対
策に真摯に取り組む姿勢さえ
見せていない。
これで、どうして東電が事
業者として「適合性」がある
といえるのだろうか。

「今なら改憲勢力の議席を
大きく減らすことはない」
と見ての党利党略解散であ
る●本来、「森友」「加計」
疑惑などの真相解明が必要
不可欠な臨時国会だが、こ
れにフタをすると思惑がこれ
ほど見え見えの解散はない。
都議選での自民党大敗北に、
安倍首相は「真摯に反省」
「丁寧な説明」などと述べ
たが、舌の根も乾かないう
ちの大暴挙である。これはほ
ど国民をなめきった態度は
ない●「全国交流集会 i
n 福井」は、衆院選挙の
直中に開かれる。福島原発
事故がなかったものとして
原発再稼働に暴走する安倍
政権。被災者を切り捨てる
安倍政権。原発問題一つとつ
ても、安倍政権には「レッ
ドカード」しかない。原発
問題を一大争点に押し上げ
てたたかう契機にしよう!

- 「全国交流集会 in 福井」
○視察ツアー
*日時 十月十四日(土)十二
時 三十分 JR敦賀駅集合・
バス 出発
- 懇親交流会II 宿舎で十八時
○全国交流集会
*日時 十月十五日(日)午前
十時 十五時
- *場所 II 小浜市商工会館会議
室 ○詳細は同封チラシ参照

- 避難指示解除区域居住者 六十五歳以上四九番 (二面)
- 統計から消える自主避難者 (三面)
- 北朝鮮 弾道ミサイル発射 (五面)



●安倍首相は、臨
時国会の冒頭解散
を模索している。
北朝鮮情勢や民進
党の不祥事などで、